

## 万博調査団「おもてなし」

3日6日に来日した博覧会国際事務局（BIE）調査団について、朝日新聞の記事から振り返ってみよう。

3月2日夕刊では「万博熱望 踊る大阪」の記事が社会面に踊っていた。写真は昨年12月のBIE次長と今回のBIE調査団へのおもてなし例。

「おもてなし攻勢」で高評価を狙うと。

9日朝刊によると6日、安倍晋三首相に面会した調査団は、7日に大阪に入り大阪市役所で松井一郎・大阪府知事や吉村洋文市長を表敬訪問。8日に会場予定地の人工島「夢洲」を視察。近くの大阪府咲洲庁舎55階にある展望台から視察後、夢洲の予定地を歩いた。

そして10日朝刊で、「歓迎」の舞台裏を紹介。夜はミナミの道頓堀川を観光船でめぐった。大雨のなか、川沿いでも大勢の人たちが旗振り。グリコの看板には夢洲の空撮写真が映し出され、川の兩岸には約1千におきに誘致ロゴののぼり約200本もずらり。

ただ、調査団の視察が終わると、すぐに撤去作業が始まった。取り外していた20代の男性アルバイトは「万博に来てほしいなら、ずっと出してあげばいいのに」とぼつり。

こうして終わった審査も含めて、調査団の日本滞在は5日間だった。今回の審査にかかる費用は、府や大阪市、経済界などでつくる誘致委員会と国で負担する。負担割合は検討中だが、誘致委側は航空券や宿泊費を負担する方向で、予算では3300万円を計上している。

大阪の各地で盛り上がった歓迎行事。府の担当者は「できる限りのことをやれて、喜んでもらえたと思う」。ただ、こうもらす職員も。「万博に批判的なことを言えない雰囲気もある。機運醸成にがんばっているんだから『水をさすな』みたいな」

開催国が決まるまで8カ月となった。

大阪に来て感じるのは、どうも朝日新聞の地元記事が迫りに欠けることだ。この万博記事も、税金などを投入して推進された「おもてなし攻勢」をどう評価するのか、そもそも「カジノ万博」なるものをメディアとして追及する姿勢が弱い感だ。記事のさいごに「万博に批判的なことを言えない雰囲気もある」と伝えているが、こんな雰囲気朝日も萎縮していないか。橋下流10年、「維新政治」連載でも、遠慮がちな記事が見受けられた。今後も「カジノ万博」とメディアを注視していきたい。

(2018年3月16日)

